

# いまかね

今金町農業協同組合

2013

1

vol.447



～第51回農村女性部文化祭より～

# 輝かしい新年を迎えて

今金町農業協同組合 代表理事組合長



小田島 親守

新年明けましておめでとうございます。

平成二十五年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。組合員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げますとともに、日頃より組合員各位、ご家族の皆様をはじめ、関係機関各位のご指導、ご支援を賜っておりますことに対し、衷心より厚く御礼を申し上げます。

本年もJA各事業へのご協力、ご利用をよろしくお願い申し上げます。

昨年度の情勢等を振り返りますと、デフレ基調の経済状況の中で事実上のゼロ金利政策実施においても国内景気は一向に好転せず、進まぬ震災復興の影響、隣国中国との尖閣諸島問題による輸出減少等々と問題が山積しており、雇用情勢も厳しい年でありました。

農業を取り巻く情勢では、TPP(環太平洋経済連携協定)につき、日本農業・地域経済の崩壊や食の安全においても国民に大きな影響を与えかねない懸念からJAグループの一員として交渉への参加反対に向けた行動を行って参りました。昨年暮れの衆議院選挙により政権が交代となりましたが、新政権の政党公約でも「聖域なき関税撤廃を前提にする限り、TPP参加交渉に反対します」との曖昧な表現であり、引き続き関係機関と共に強力に参加阻止に向け行動して参ります。

さて、本町における昨年の農業では春先における融雪の遅れが心配されましたが、春耕期より好天に恵まれました。水稲では作況指数が桧山108と豊作となりましたが、出来秋期における猛暑に

より馬鈴薯・野菜等に品質低下等の影響が生じました。酪農においても同じく夏以降の猛暑により乳牛が体調を崩し搾乳量減少となりましたが、個体販売では堅調に推移しており、販売事業総体では事業計画に沿った内容となる見通しであります。

国営緊急農地再編整備事業につきましては、今までの継続要求がようやく実現し今金南地区について今年度2億円の調査・設計費が予算化されました。来年度から本格的工事に入ることとなりますが、今金北地区につきましても早期採択となるよう継続要求して参ります。

JA事業全体としましては、継続協議してきました道南1JA合併協議につき、当面単独での運営を昨年5月に決定し内容報告をさせて頂きました。また、本年は第九次中期経営計画の最終年となります。営農指導方針として掲げております「今金型地域複合経営」を目指し5つの重点事項を基に生産性向上と農業所得拡大を目指し取り組んで参りますとともに、JA運営にあたりましては経営管理・各部門の業務体制・財務基盤の強化、コンプライアンス体制の強化、内部牽制機能の強化を図り効率的運営に取り組み、役員一人一人が組合員皆様の負託に応えられるよう全力で取り組んで参りますので、皆様もより一層JA事業への結集とご協力をお願い致します。

結びに、本年も災害がなくご家族が健康で豊穡の出来秋を迎えることができますよう心から御祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

つつしんで  
新春のお慶びを  
申し上げます

平成二十五年元旦

代表理事組合長

小田島 親守

専務理事 内ヶ島 道良

常務理事 船木 実

理事 村瀬 廣

理事 細川 信一

理事 岸 泉

理事 黒須 隆之

理事 仁木 明

理事 山崎 仁

理事 境田 哲哉

代表監事 村本 正義

監事 上野 義則

員外監事 加藤 要

経済部長 水本 俊光

管理部長 大場 倫夫

営農部長 長浜 隆之

金融部長 荒川 英也



# 平成25年 年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会 会長

飛田 稔章



組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成25年の新春をご家族とともに迎えられたことを心からお慶び申しあげます。

昨年の北海道農業は、一部地域での豪雪の影響などにより農作業の遅れなどがありました。その後比較的天候に恵まれ、降雪被害や台風による被害などによって地域や作目による差はあるものの、組合員・JAの努力が報われ総体的には豊穰の出来秋となりました。

さて、平成23年の東日本大震災から2年が経とうとしておりますが、復興への道筋は決して容易なものとはなっておりませんが、また原発事故の収束にも目途が立たず、全国の農業者や消費者は不安を抱えています。JAグループは、被災地の復興に向けてあらゆる支援を続けていくこと、安全・安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様にお届けすることに、今こそ協同組合の精神である「絆」を大切にすべく価値観のもとで、総力を挙げて取り組むことが必要です。なお、今冬は電力不足の可能性から、北海道では今夏の取り組み同様7%以上の節電目標が設定されました。もし万が一にも計画外停電となった場合には相当の支障が生じることが危惧されることから、JAグループ北海道として節電に取り組んでいく必要がありますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、本年は『協同活動でつくる持続可能な農業と地域社会』を主題に開催した第27回JA北海道大会決議事項の実践初年を迎えます。本大会は向こう3か年間のJAグループ北海道のめざすべき方向を決定し、これを内外に表明するとともに組合員ならびに役職員の意識高揚を図り総力を結集して決議事項の実践を図ろうとするものです。

大会決議事項の「持続可能な北海道農業の実現」では、日本の食料基地北海道として、安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供するという使命を果たすために、持続可能な北海道農業の実現に向けて、必要な農

業政策を国に求めていくとともに、自らも農業生産を担う多様な担い手の確保・育成、農業生産に意欲を持って取り組める農業所得の拡大、食の安全・安心対策の実施と環境に配慮した農業の実践に取り組むことを決議しました。

一方、「次代を担う協同の実践」では、JAグループ北海道の組織・事業・経営において、JAの経営を担う次世代の担い手の正組合員加入を促進し、次代に向けてともに協同活動に取り組むこと、地域におけるライフラインの一翼を担うものとして、総合事業体の強みを生かし、組合員・利用者（地域住民）から高い満足度を得られるサービスを提供するため、自らがさらなる経営の健全性向上に取り組むこと、加えて、組織を支える人づくりとJAグループ北海道への理解醸成に向け広報活動に積極的に取り組むことを決議しました。

また、「PO交渉参加断固阻止」に関しては、多くの関係機関と連携の上、理解促進運動を継続し、組織の総力を結集し不退転の決意で徹底して闘うことを特別決議として再確認しました。

大会決議に基づく基本目標の具体的成果に向け、JAグループ北海道の総力を挙げて取り組みましょう。

今後、景気の低迷や農業貿易交渉等の進展によつては、農業への影響が大きく懸念されますが、全道の組合員の皆様をはじめJA役職員が『一人は万人のために、万人は一人のために』という協同組合の理念をよりどころにして、JAへの結集を強め協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開し未来を切り開くものと確信しております。

本年も災害がなく、豊穰の秋を迎えることができ、北海道農業の発展と成長をめざし飛躍の年となりますよう心から祈念申しあげ、新年にあたっての挨拶といたします。

# 平成24年の作物生育状況と次年度に向けて

平成24年は春先の融雪が遅くまた低温が続き、作業の遅れが心配されました。5月以降天候が回復し作業は順調に進みました。5月下旬から7月中旬にかけて降水量が少なく、8月中旬から9月下旬には記録的な高温となり、気象に振り回された年になりました。

普及センターの作況調査の結果を振り返り、次年度に向けた対策を考えます。

数字は10a当たり、( )は平年値



水 稲

<b>収量要素</b>	m <sup>2</sup> 穂数	545 (516) 本	一穂粒数	62 (64) 粒
	精玄米重	604 (527) kg	くず米重	20 (39) kg

**生育概況** は種作業は、育苗ハウス内の土の乾燥が遅れたことから平年より5日遅れた。は種後は気温がやや高めに推移したことから、葉数が順調に増加し、移植時の苗は充実していた。また、ハウス縁苗の生育遅れは見られなかった。

一部地域で「ばか苗病」の発生が見られた。移植作業は5月27日で平年並であり、6月1、2半旬の気温が高めに推移したことから、活着が良好で、分けつが順調に増加した。幼穂形成期は7月4日で平年より1日早く、出穂期は7月6半旬の高温により8月1日で平年より2日早かった。成熟期は、8月中旬以降の記録的な高温により9月14日となり、平年より5日早く、収穫期も9月23日で平年より6日早く進んだ。

総粒数がやや少なかったものの不稔は少なく、精玄米重歩合は高く、檜山管内の作況は108のやや良となった。品質は良好で、タンパク含有率もやや低かった。

- 次年度に向けて**
- ・深水管理をおこないましょう（今年は気象に助けられた）
  - ・ばか苗病については、種子管理について再点検しましょう



秋播小麦

<b>収量要素</b>	m <sup>2</sup> 穂数	566 (820) 本	一穂粒数	33 (27) 粒
	子実重	623 (548) kg	一等比率	100 (47) %

**生育概況** 平成23年秋は、天候不順による前作物の収穫作業遅れから、秋まき小麦のは種も遅延が見られた。平成24年春の融雪遅れにより、起生期は平年より10日遅れ、一部ほ場で雪腐病の発生が見られた。

は種の遅れたほ場では茎数不足となった。その後の高温、干ばつ傾向により、生育は回復した。幼形期で平年より4日遅れ、止葉期で1日遅れ、出穂期で1日早い、成熟期で2日遅れとなった。収穫は平年より2日遅れとなった。登熟期間は低温寡照に経過し長くなり、多収となった。赤かび病の発生も少なく、品質も高かった。

- 次年度に向けて**
- ・茎数確保のため、起生期から適正な施肥を実施する必要があります
  - ・「きたほなみ」の子実の充実が必要なため、止葉期追肥が重要です
  - ・透排水性の良いほ場をつくりましょう
  - ・適正なは種と雪腐病防除をおこないましょう



馬鈴しょ

**収量要素** 規格内収量 [露地 5,276(2,684)kg 早出し 4,316(3,228)kg]  
ライマン価 [露地 13.7(14.6)% 早出し 17.0(13.2)% ]

**生育概況** [露地]植付作業は平年並、開花期は平年より4日早く、茎葉黄変期は1日早かった。また、病害の発生も少なかった。

9月にはまとまった降雨があり、収穫作業がやや遅れた。いも数は多く、大玉であり、上いも収量が高かった。形質が良く規格内率は平年を上回ったが、ライマン価が低かった。収穫後、貯蔵中に萌芽が見られ製品率が低下した。

[早出し]は種作業は順調に進み、その後の生育も順調に推移した。疫病等の病虫害の発生も少なかった。着蕾期で平年より3日早く、開花期は1日早かった。収穫は平年より2日早く、品質、収量ともに良かった。

- 次年度に向けて**
- ・有機物施用により腐植を増加させましょう（高温時品質低下の軽減）
  - ・培土は適正な土壤水分で実施し、十分な土量と安定した形状を維持しましょう
  - ・高温時は、収穫物をほ場に放置せず、貯蔵前には十分なキュアリングをおこないましょう



豆類

**収量要素** 着莢数{さや数}[大豆 523 (365) 個/m<sup>2</sup> 小豆 505 (459) 個/m<sup>2</sup>]  
子実重 [大豆 262 (221) kg 小豆 241 (244) kg ]

**生育概況** 着莢数は平年より多く子実重は並であったが、登熟期間が高温少雨で推移し成熟期以降に降雨が多かったことで、製品歩留まりが著しく低かった [大豆は裂皮・しわ粒、小豆は粒大が小さい]。

- 次年度に向けて**
- ・干ばつ害と湿害は表裏一体の関係があり、心土破碎などにより排水対策を十分におこない、根域を拡大させましょう
  - ・適正な輪作体系を守りましょう（豆類の連作や交互作はしない）



てんさい

**収量要素** (株)北糖調べ  
根重 8,565(6,725)kg 茎葉重 5,447(4,498)kg 根中糖分 15.0(17.4)%

**生育概況** は種作業・移植作業は、平年並であった。生育は順調で病害の発生も少なかった。根部の肥大は良好であった。生育後半は気温が高かったため、糖分の蓄積が進まなかった。

- 次年度に向けて**
- ・ほ場pHの改善をおこないましょう
  - ・透排水性の良いほ場をつくりましょう
  - ・完熟堆肥により地力向上をおこないましょう、
  - ・盆過ぎに発生する雑草の対策（草取り）をおこないましょう



## ●農協青年部道外視察研修報告

平成24年12月11日から14日にかけて、JA今金町青年部道外視察研修が開催され仁木部長をはじめ青年部員4名が参加、先進的な農業技術や経営形態等を視察しました。視察先の一つである「永井農場」ではまず法人を設立した経緯や事業内容、地域農業の現状等を説明して頂きました。

経営作目は水稻・酪農・ブドウなどの果樹やアスパラ・にんにくといった野菜を作付けし、米については餅や煎餅・揚げ餅、また軽井沢にアンテナショップを設立し、ジェラートの販売等多角的な経営を行っています。

今回視察した地区は、1戸当たりの平均耕作面積が50aと零細で兼業農家が多く、高齢化が進み農業を行っていくのが困難な農家が増えてきている為、永井農場では地域農業を維持し、貢献していける法人でありたいと話しておりました。

地域と共生し、農業がもつ多面的な機能を発揮した経営の形態については見習う部分も多く、視察に参加した方々にとっては大きな刺激になったようでした。



## ●ホクホク！「今金男しやく」東京のスーパーでPR販売

12月12日、東京にある高級スーパーマーケット大丸ピーコック文京グリーンコート店と芝浦アイランド店の2店舗で今金男しやくのPR試食販売を行いました。

今回のPR販売活動は昨年に続き2回目で、生産者の岡林拓馬さんと田中美佳さんが参加され農協販売課職員の2名を含む計4名が、それぞれ2名ずつ2店舗に別れ販売致しました。

参加された皆さんの精一杯のPR販売により目標の数量も販売する事ができました。またお客様の多くがリピーターとなっており、好んで今金男しやくを購入されているということでした。今後もお客様の期待に応えるべく安心・安全、良品質な馬鈴薯栽培お願い致します。



## ●第51回農村女性部文化祭開催

12月6日、今金町民センターにて第51回農村女性文化祭が開催され、女性部員・いちい会員総勢48名が出席されました。

開催にあたりJA今金町女性部 部長の岸幸子さんより『女性パワーを発揮し、女性ならではの視点と意見をもってさまざまな課題に気づいたり、見直したり、仲間とともに地域に見える活動をおこなっていきましょう』と呼びかけました。

文化祭プログラムでは、JA今金町営農部農業経営課課長 佐藤貴弘より「農作業事故防止について」と題し、農作業事故の発生要因や発生時間帯・発生場所など実際の事故の事例をもとに講演を行いました。また、午後からは各々趣向を凝らした演芸が

披露され、会場は大きな笑いで包まれ笑顔あふれる文化祭となりました。



## NEXT GENERATION

## 新世紀の担い手たち

金原地区 伊藤 和喜さん〔26歳〕



今金町を担う若者達を紹介するコーナー。第13回目は金原地区の伊藤和喜さんをご紹介します。

伊藤さんは北海道農業専門学校卒業後に就農され、今年で7年目になります。現在は家族とともに水稲・馬鈴薯・牧草の作付と黒毛和種を飼育しています。

また、就農後は今金町酪農ヘルパーの業務も経験され、現在青年部部長として積極的に地域イベントにも参加し、精力的に活動しています。今後ますますのご活躍をご祈念いたします。

## 《プロフィール》

伊藤 和喜（いとう かずき）

北海道農業専門学校卒（就農7年目）

《経営作物》 水稲、馬鈴薯、牧草、肉牛

《家族構成》 伊藤 徳幸（父）、節子（母）

## 《農業について感じること》

農業は自分の頑張りが結果として返ってくるので、とてもやりがいを感じています。しかし責任も大きく、確実な正解と言えるものが無く、常に何が最良なのかを考え、試行錯誤しています。

また、黒毛和種の飼育では、市場で高評価を得たときはとてもうれしく、これからまた頑張ろうという気持ちになり、やりがいを感じています。

## 《趣味》 スノーボード

## 《今後の夢》

将来は黒毛和種の生産を経営の中心とたく、牛舎の増築や、牛の増頭など規模の拡大をしていきたいです。同時に規模が大きくなっても管理不十分にならないよう個体管理には今まで以上に力を注いでいきたいと考えています。



# 事故急増中!! お客様の石油ホームタンク大丈夫ですか?

## 配管劣化による漏えい

配管の劣化は、油漏れによる汚染事故を招く大きな引き金となります。

## 腐食による倒壊

長年の風雪でタンクが腐食し、倒壊寸前の状態になっていませんか?

## 油漏れ火災

万が一油が漏れたすと、火災等の大事故も発生しかねません。

▼▼▼▼▼いったん油が漏れると▼▼▼▼▼

**土壌汚染**

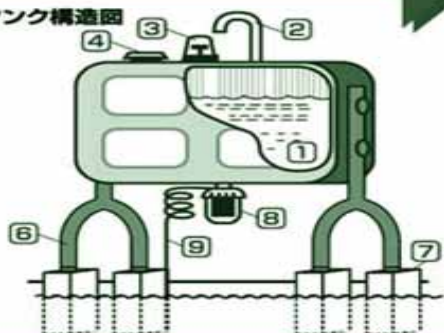
**水質汚濁**

**農作物・魚類の被害**

等の各種被害が発生する恐れがあります。

## まず何よりも自分でチェック!

■ホームタンク構造図



ホームタンク	ストレーナー
1 水さびによるタンクの洗浄度	7 東石の破損
2 エアー抜破損	8 カップの破損・フィルターの汚れ
3 ゲージ破損	
4 給油口キャップ破損	配管パイプ
5 本体の老朽	9 配管の破損・油もれ
6 タンク脚部腐食	

日頃からこまめにセルフチェックを行うことで、油もれ等の各種事故を防止し、長期間に渡って、安全にホームタンクを使用することが可能となります。(目視だけでも十分な効果を期待できます)

### A タンク

- 外面(特に底部)が著しく腐食していませんか? (→穴が空く危険性大)
- 脚部・タンクとの接触面が著しく腐食していませんか? (→倒壊の危険性大)
- タンクに油がにじんでいませんか? (→油もれの可能性大)



### B 設置場所

- 脚部は東石にボルトできちんと固定されていますか? (→倒壊の危険性大)
- タンクが傾いて設置されていませんか? (→倒壊の危険性大)



### C 配管・ストレーナーなど

- ストレーナー、配管の接合部がゆるみ、油がにじんでいませんか? (→油もれの可能性大)
- 配管を負荷の掛かる状態(埋設配管上に駐車、雪中に埋もれる等)にいませんか? (→油もれの可能性大)



### 2~3年に1度 タンク洗浄

2~3年に1度は定期的に洗浄を行い、タンクの状態を確認しましょう。  
※ただし、ストレーナーの汚れが目立つ場合は、年数に関わらず洗浄されることをお勧めします。  
● ホームタンク洗浄とは、タンク洗浄機により、タンク内部の不純物やサビを取り除く作業です。  
● ホクレンSSでは、洗浄作業とともに、細かなパーツ点検や部品交換等も行いますので、安全管理面でも大きな効果が期待できます。



タンク内に発生したサビ  
タンク内部は、主につなぎ目部分にサビがたまりやすくなっています。

洗浄中のタンク洗浄機



洗浄機による処理

洗浄機により、タンク内に浮遊するサビや不純物を吸引・除去します。



洗浄後のタンク洗浄機

### 定期的に タンク交換

老朽化したホームタンクは、さまざまな危険性をはらんでいます。各種事故を未然に防ぐためにも、定期的にタンク交換を行いましょう。  
● ホクレンSSでは、タンク交換と同時に、各種部品の点検等を行いますのでご安心いただけます。



長期間設置の球形タンクは 注意!!